

令和 7 年 1 月 10 日

青森県教育委員会第 923 回定例会

期　日　　令和7年12月10日（水）
場　所　　教育庁教育委員会室

会議次第

- 1 開会
- 2 報告
 - 報告第1号 議案に対する意見について 1
- 3 その他
 - 青森県立高等学校魅力づくり推進計画に関する学校の在り方地区検討委員会（第1回）の概要について 2
 - 職員の懲戒処分の状況について 6
- 4 閉会

報告第1号

議案に対する意見について

知事から意見を求められた下記議案について、緊急を要するため、青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則第4条第1項の規定に基づき、教育長において臨時に代理し、原案に同意したので、ここに報告します。

記

- 1 令和7年度青森県一般会計補正予算（第3号）案（教育委員会所管分）
- 2 特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案
- 3 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例案
- 4 義務教育諸学校等の教育職員の給与等の特例に関する条例の一部を改正する条例案
- 5 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例案

[その他]

学校の在り方地区検討委員会（第1回）概要について

1 目的

青森県立高等学校魅力づくり推進計画前期実施計画策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等で地区の望ましい学校配置等を検討するため、県内6地区に設置する。

2 開催状況

地 区	月 日	会 場
東青地区	11月26日（水）	ウェディングプラザアラスカ
西北地区	11月17日（月）	プラザマリュウ五所川原
中南地区	11月19日（水）	弘前パークホテル
上北地区	11月14日（金）	サン・ロイヤルとわだ
下北地区	11月25日（火）	プラザホテルむつ
三八地区	11月25日（火）	八戸プラザホテル

3 主な意見

（1）学校の在り方について

No	意 見	地区名
1	青森ブランド強化やDX推進、デジタル分野で活躍できる人財、地域の産業や文化を支える人財などを育成するべき。	東青
2	学校で社会を生き抜く力を身に付けさせるべき。	中南
3	デジタルスキルのほか、主体性や協調性を身に付けた人財を育成してほしい。	三八
4	建設業はなくてはならない業種であり、土木工学科は重要である。	西北
5	中南地区の特色は一次産業であり、農業従事者の育成のため農業高等専門学校を設置するべき。	中南
6	生徒のニーズを踏まえると、デジタル分野の学科や学校の設置が考えられる。	中南
7	地域の課題解決に特化した学校が必要である。	上北
8	学際領域や地域社会の学科の設置も考えられる。	下北
9	将来を見据えた学科の設置などを考える必要がある。	下北
10	デジタル、地域課題の解決、探究的な学びに重点的に取り組む学校が必要である。	三八
11	横断的な学びを提供する学校が必要である。	三八
12	技術系公務員の不足を補う人財を育成するコースがあると良い。	東青

13	下北地区からの流出を防ぐため、特進コースを普通科に設置することが必要である。	下北
14	地域産業との関連で、工業、デジタル、看護、水産業などの学びがあると良い。	東青
15	将来の産業の方向性を踏まえると工業科は必要な学科である。	西北
16	職業教育を主とする学科の選択肢は維持するべき。	東青、西北、上北
17	総合学科を増やすことが考えられる。	上北
18	農業は三戸郡の主要産業であり、農業高校は地域に残すべき。	三八
19	将来の生活設計につながるような特色や学科があると高校選択の基準になる。	東青
20	各校に多様な役割を持たせるのではなく、学校ごとに異なる役割を持たせれば良い。	東青
21	校則等を生徒の自主性に任せる学校があっても良い。	東青
22	こどもたちが幅広く選択できるような学科構成としてほしい。	西北
23	入学後に様々な学びを選択できる学校が必要である。	中南
24	単位制は、様々な科目の開設や多様な生徒への対応にもつながるので、導入を拡充してほしい。	西北、上北
25	生徒の多様化への対応として、インクルーシブ教育、通級指導の拡充が望ましい。	上北
26	単位制や中高一貫教育などの教育制度の拡充については、これまでの効果を検証した上で検討が必要である。	中南
27	定時制課程・通信制課程の時代に即した在り方の検討が必要である。	中南、三八
28	県外から生徒を呼び込むような学校の特色づくりも大事である。	東青
29	県全体の学力の底上げが必要である。	東青
30	偏差値による高校選択という考え方自体を見直した方が良い。	東青
31	教育の質を高めることを考えるべき。	上北
32	学校には地域産業の後継者を残す役割もあるのではないか。	三八

(2) 全日制課程の学校配置について

No	意 見	地区名
1	学級減ではなく、少人数学級編制の実施により対応するべき。	全地区
2	学校配置案を県教育委員会が示した上で議論するべき。	中南、下北
3	現状の学校数や学科を維持するべき。	東青
4	3～4学級の規模を維持するため、前期・後期ともに大規模校から学級減するべき。	東青
5	志望倍率の高い高校の学級減は考えなくとも良いのではないか。	東青

6	定員割れとなっている高校から学級減することが考えられる。	中南
7	農業科、工業科及び総合学科の学級数を維持するとともに、五所川原工科高校の普通科を1～2学級の減を行った上で、五所川原高校の教育活動の質を高めてはどうか。	西北
8	人財育成の観点から、職業教育を主とする専門学科の学級減については、倍率のみでは判断せず、慎重に検討するべき。	中南
9	中南地区は倍率が1倍を超えていていることから、学級減等については慎重に検討するべき。	中南
10	五所川原農林高校と五所川原工科高校の統合は短期的には魅力が高まるよう感じるかもしれないが、長期的には学びが縮小し、持続可能性が低いように感じる。	西北
11	将来的には田名部高校と下北地区統合校の1校2キャンパス制も考えられる。教員の兼務や単位制により、生徒が学びたい授業を受けられる環境を整備できないか。	下北
12	学級減だけでなく統合についての検討も必要である。	三八
13	通学の負担を考慮した学校配置とするべき。	東青、中南、上北、三八
14	高校の閉校は地域への影響が大きいため、反対するのが当然である。	中南
15	教育を受ける環境整備という観点から、今ある高校は維持するべき。	上北
16	百石高校の学級減や募集停止はすべきではない。	上北
17	青森市、弘前市、八戸市に生徒が流出していることを踏まえると、西北地区や上北地区の学校の学級減ではなく、3市の大規模校の閉校も考えられる。	上北
18	県がスクールバスや道路を整備するのであれば、将来的には大間高校を閉校することも考えられる。	下北
19	学校配置と併せて、単位制や遠隔授業による柔軟な学び方について検討すべきである。	三八
20	八戸西高校は高倍率を維持しており、三戸郡からのアクセスもよいため、現状の学級数を維持してほしい。	三八

(3) 定時制・通信制課程の学校配置について

No	意 見	地区名
1	定時制には一定のニーズがあるため、現在の配置を維持すべき。	西北
2	田名部高校に昼間定時制の設置を望む。	下北
3	通信制については、西北地区の私立高校の現状を踏まえると、現在の配置で良い。	西北
4	田名部高校にも通信制があっても良いと思う。	下北

(4) その他

No	意 見	地区名
1	通学支援が必要である。	東青、上北、三八
2	下宿を増やすなどして通学時間が短くなるようにしてほしい。	下北
3	学校が小規模化した場合、教員加配等により教育環境の充実を図るべき。	東青
4	少人数学級編制の導入に当たっては、県と高校が所在する自治体が連携して教員数を確保していくべき。	西北
5	少人数学級編制の実施により、募集人員により算定される教員数は減ることとなるので、教員数の確保をお願いしたい。	下北
6	遠隔教育を活用することで、各校の魅力向上につながる。	上北
7	遠隔授業の実施など地区懇談会で出た意見も実施計画に反映してほしい。	下北
8	県立高校の教育資源を県内全ての高校生が共有できるようにしてほしい。	下北
9	学校と地域の連携の在り方について議論が必要である。	三八
10	前期実施計画には農業高校を残すというメッセージを盛り込んでほしい。	三八
11	小・中学校と連携しながらコミュニティ・スクールの導入を進めてほしい。	三八

[その他]

職員の懲戒処分の状況について 令和7年12月（11月1日～11月30日分）

青森県教育委員会

- 事案1 ①被処分者 下北地域の高等学校 講師（38歳 男性）
②事案の概要等 物損事故
 - ・ 令和7年7月16日（水）午前9時45分頃
 - ・ 下北郡大間町内の町道
 - ・ 運転中にハンドル操作を誤り、道路右側の縁石に衝突したもの。
③処分内容 戒告
④処分年月日 令和7年11月17日
⑤その他の 令和6年8月12日に速度超過をしていることから、量定を加重
- 事案2 ①被処分者 特別支援学校 寄宿舎指導員（58歳 男性）
②事案の概要等 人身事故
 - ・ 令和7年6月4日（水）午後1時35分頃
 - ・ 三戸郡南部町内の県道
 - ・ 赤信号を見落として交差点に進入し、左側から同交差点に進入してきた車と衝突したもの。
 - ・ 事故の相手方（1名 約2週間の加療）
③処分内容 戒告
④処分年月日 令和7年11月21日